

# グループホーム等の精神障害者の利用状況調査

精神保健福祉センター

## 1 調査目的

地域の支援体制づくりを検討する基礎資料とするため、精神障害者（認知症を除く精神疾患を有する者。他障害と合併している場合を含む。）のグループホーム・ケアホームの利用状況を把握する調査を行った。

## 2 調査対象

平成25年4月1日現在で長野県内に設置されているグループホーム・ケアホームを対象とした。

## 3 調査方法

平成25年5月1日現在の状況について調査した。

長野県障害者支援課を通じてのEメール、または精神保健福祉センターからの郵送により質問用紙を送り、精神保健福祉センターで取りまとめた。

対象439ホーム中294ホームから回答を得、回答率は67.0%であった。

## 4 調査結果

### (1) 受け入れ状況

- ・現在精神障害者が入居中または過去に入居していたグループホームを合わせると88.8%であり、全く受け入れ経験が無いのは11.2%であった。（図1）
- ・地域別の受け入れ状況にも差がみられた。（表1）
- ・受け入れ経験が無い33ホームに理由を聞いたところ、複数回答で、「入所希望無し」が60.6%、「症状への対応が困難」「人員確保等が困難」がそれぞれ39.4%であった。（図2）

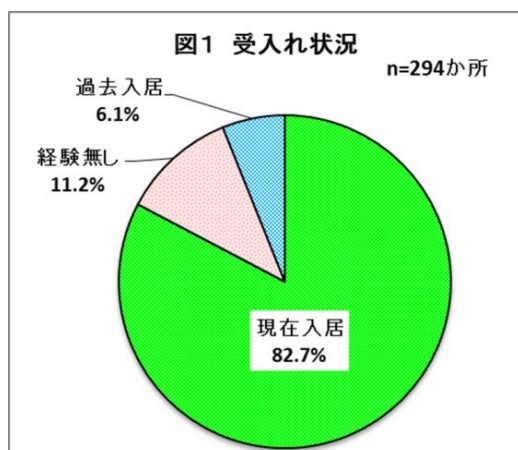
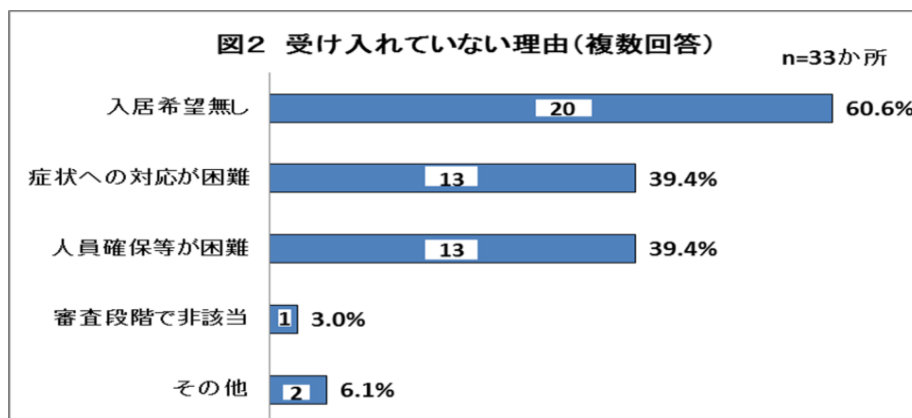


表1 受け入れ状況（地域別）

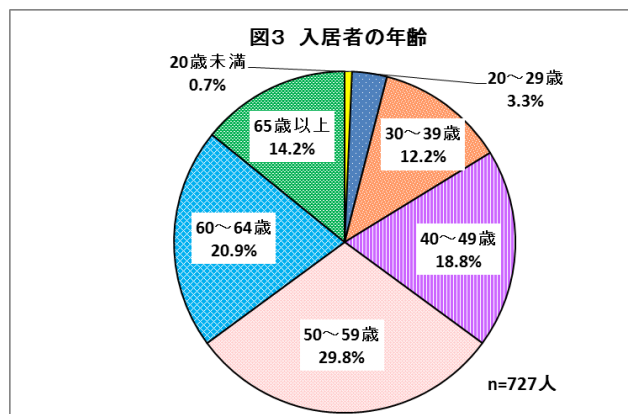
単位：ホーム数

	経験無し	現在在籍	過去在籍	合計
全県	33	243	18	294
佐久	4	24	0	28
上小	4	16	14	34
諏訪	4	3	0	7
上伊那	0	38	0	38
飯伊	0	24	2	26
木曾	5	2	0	7
松本	3	36	1	40
大北	4	8	0	12
長野	9	71	1	81
北信	0	21	0	21



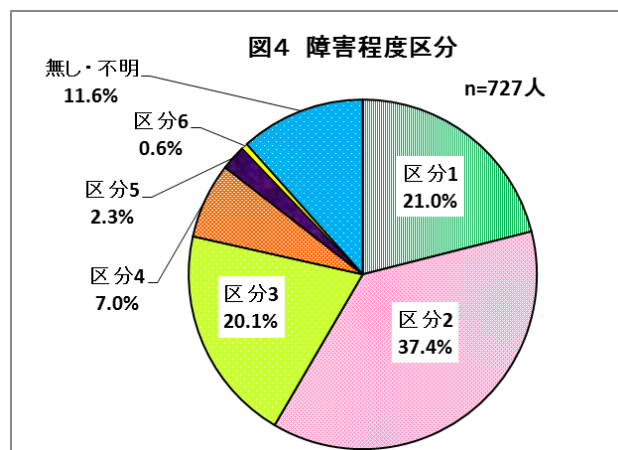
## (2) 入居者の年齢

・現在グループホームに入居中の精神障害者 727 人中、50～59 歳が 29.8%、60～64 歳が 20.9%と多く、65 歳以上も 14.2%にのぼり、高年齢層が多かった。(図 3)



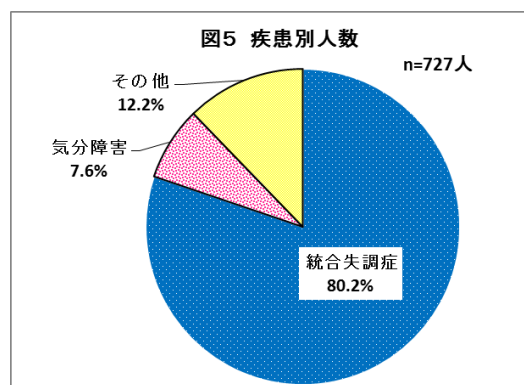
## (3) 入居者の障害程度区分

・現在グループホームに入居中の精神障害者 727 人中、区分 2 が 37.4%と最も多く、区分 1 が 21.0%、区分 3 が 20.1%であった。(図 4)



## (4) 入居者の疾病別人数

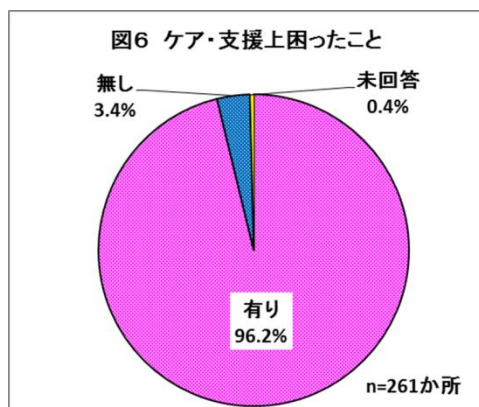
・現在グループホームに入居中の精神障害者 727 人中、統合失調症が 80.2%とほとんどを占めた。(図 5)



## (5) ケア・支援上困ったこと

・精神障害者の受け入れ経験がある 261 ホーム中、「困ったことがあった」と回答したのは 96.2%とほとんどであった。(図 6)

・ケア・支援上困ったことの内容(複数回答)は、「他の入居者とのトラブルを起こした」「身の清潔が保てない」「生活リズムが整わない」「食事に不適切さや偏りがある」等多岐にわたっていた。(表 2)

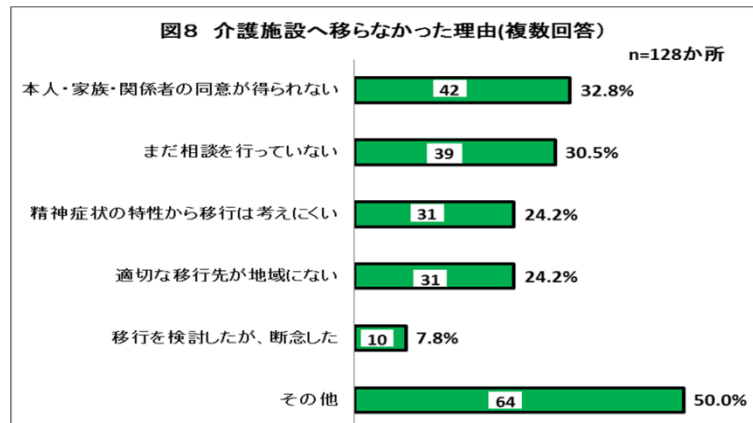
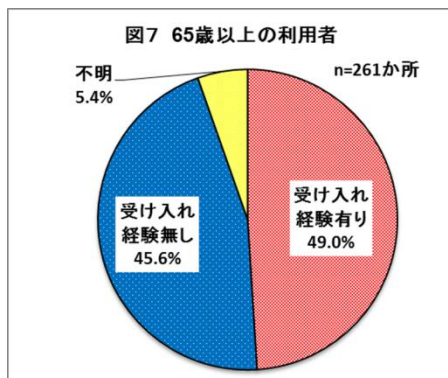


問題区分	困ったことの内容	件数	割合
対人関係の問題	他の入居者とトラブルを起こした	165	65.7%
	近隣に対し迷惑行為があった	106	42.2%
生活自立の問題	身の清潔が保てない	153	61.0%
	金銭管理が困難	125	49.8%
	洗濯や掃除ができない	122	48.6%
	火の始末が十分に出来ない	40	15.9%
集団生活上の問題	生活リズムが整わない	144	57.4%
	日中活動に参加しない	126	50.2%
健康管理上の問題	食事に不適切さや偏りがある	138	55.0%
	服薬管理が不十分で症状が再燃した	115	45.8%
	自傷行為や自殺企図があった	80	31.9%
本人以外の問題	通院の付き添いに人手がかかる	85	33.9%
	症状悪化時に医療機関と連絡が取れなかった	19	7.6%
その他	入院が必要な時に親族の同意が得られなかった	9	3.6%
その他		85	33.9%

## (6) 65歳以上の利用者

・精神障害者の受け入れ経験がある 261 ホーム中、現在及び過去に 65 歳以上の精神障害者が入居していたホームは、49.0%と約半数であった。(図 7)

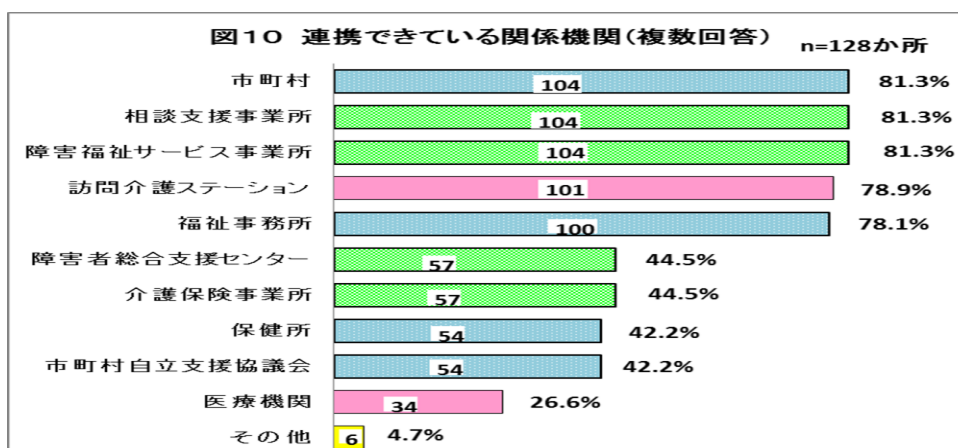
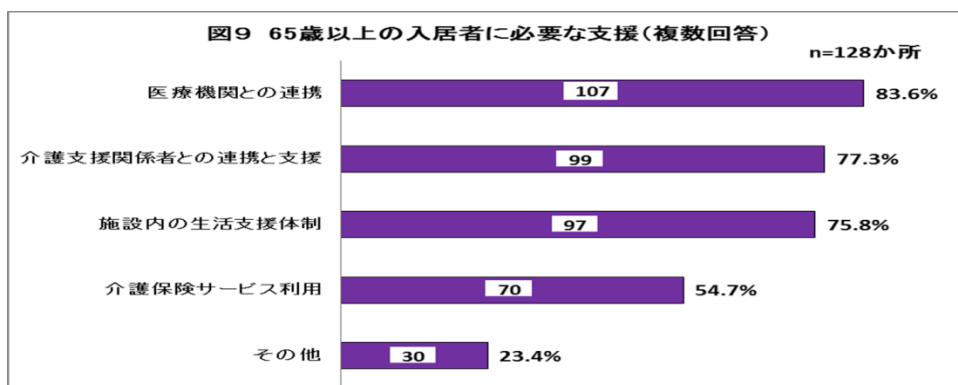
・入居した精神障害者が 65 歳以上になっても介護施設へ移らなかった理由については、複数回答で、「本人や家族・関係者の同意が得られない」「まだ相談を行っていない」が 3 割台、「精神症状の特性から移行は考えにくい」「適切な移行先が地域にない」が 2 割台であった。その他には、「介護認定がつかない」「本人が希望していない」という回答が多かった。(図 8)



## (7) 65歳以上の入居者に必要な支援や連携関係機関 (複数回答)

・65 歳以上の精神障害者の受け入れ経験があるホームに、65 歳以上の入居者に必要な支援を質問したところ、「医療機関との連携」が 83.6%、「介護支援関係者との連携と支援」が 77.3%、「施設内の生活支援体制」が 75.8%と上位を占めた。(図 9)

・65 歳以上の精神障害者の受け入れ経験があるホームに、連携できている関係機関を質問したところ、市町村、相談支援事業所、障害福祉サービス事業所が同率で 81.3%と上位であり、次に訪問看護ステーションが 78.9%、福祉事務所が 78.1%であった。医療機関との連携は 26.6%と低率であった。(図 10)



### (8) 精神障害者の受け入れに必要なこと（複数回答）

・回答のあったホーム総てに質問したところ、「世話人・生活支援員の育成及び研修」が83.7%と最も多く、次に「多様な精神症状の特性に対する理解」が67.7%と多かった。医療側の協力やサービスの充実、家族・地域の理解に関する多くの項目について、半数前後のホームが必要と回答した（表3）

		n=294か所	
ホーム内の課題	世話人・生活支援員の育成及び研修	246	83.7%
	多様な精神症状の特性に対する理解	199	67.7%
	人員の確保等の受け入れ体制整備	156	53.1%
	体験入所部屋の確保	82	27.9%
医療機関の協力	病院からの利用者に関する情報提供	177	60.2%
	医療的ケア提供の充実	164	55.8%
	緊急時の支援体制の確保	149	50.7%
サービスの充実	日中活動の場の充実	172	58.5%
	相談支援体制の充実	137	46.6%
	市町村の支援	127	43.2%
	訪問サービスの利用	70	23.8%
家族・地域の理解	地域住民の理解	164	55.8%
	家族の理解・支援	148	50.3%
その他		54	18.4%

### (9) 今後の受け入れの可能性

・回答のあったホーム総てに質問したところ、空きが生じた場合に精神障害者の利用が可能と答えたのは、68.7%であった。（図11）

・現在精神障害者を受け入れているホームの76.1%は今後の受け入れが可能であり、逆に受け入れ経験のないホームの72.7%は今後の受け入れが困難との回答だった。（図11-2）

・地域別でも、今後の受け入れが可能なホームの割合に差があった。（表4）

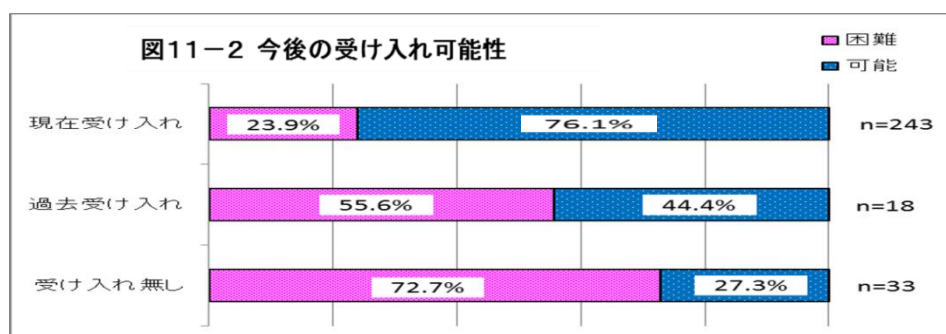
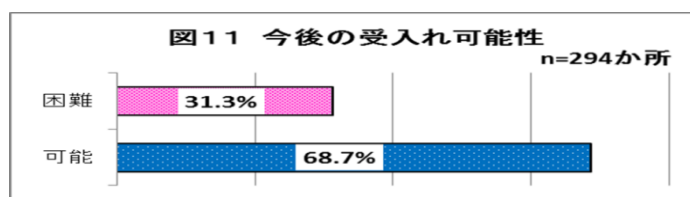


表4 今後の受け入れ可能性(地域別)

	単位: ホーム数					
	可能		困難		合計	
全県	202	68.7%	92	31.3%	294	100%
佐久	28	100%	0	0%	28	100%
上小	25	74%	9	26%	34	100%
諏訪	3	43%	4	57%	7	100%
上伊那	13	34%	25	66%	38	100%
飯伊	18	69%	8	31%	26	100%
木曾	2	29%	5	71%	7	100%
松本	26	65%	14	35%	40	100%
大北	6	50%	6	50%	12	100%
長野	61	75%	20	25%	81	100%
北信	20	95%	1	5%	21	100%

## 5 考察

### (1) 入居した精神障害者の状況

- ・年齢 50 歳以上の入居者が 3 人に 1 人となっており、65 歳以上の入居者も 7 人に 1 人になっていた。
- ・疾患別では 8 割の入居者が統合失調症であり、障害程度区分では 8 割近くが区分 1～3 と比較的軽い区分認定になっていた。

### (2) 精神障害者の入居受け入れの状況

- ・ケア・支援上困ったことには、対人関係や生活自立、集団生活、健康管理上の問題等、精神障害者に特有の問題とばかりは言えないことも多く挙げられた。
- ・受け入れのために必要なこととしては、「世話人・生活支援員の育成及び研修」「多様な精神症状の特性に対する理解」といったホーム内のマンパワーの充実が、大きな課題の一つとして挙げられた。

### (3) 関係機関との連携

- ・市町村や訪問看護ステーション等との連携は比較的うまくいっているが、医療機関との連携は不十分な状況であった。
- ・精神障害者の受け入れのために必要なこととしても、医療機関の協力が挙げられていた。

### (4) 入居及び入居中の支援に向けた課題

- ・精神障害者の受け入れ経験は 9 割近くにのぼったが、今後空きが生じた場合に受け入れの可能性があると回答したホームは 7 割弱だった。
- ・ホーム設置数や入居受け入れの地域差もあった。

## 6 まとめ

- ・グループホームに入居している精神障害者には高年齢層が多いが、65 歳になっても介護度が低い評価になっている状況がある。障害支援区分への変更の中で、精神障害者の特性に応じた適切な配慮がなされることが期待される。
- ・高齢になっても入居を継続するケースが多いと考えられ、支援のためには医療機関や介護サービス関係者との連携や支援体制の整備が必要である。
- ・多様な支援にはグループホーム職員の専門性の向上が不可欠である。精神障害者理解のための研修に対するニーズは高く、研修の充実強化が必要である。
- ・医療機関との連携は欠かせないため、双方に負担の少ない連携ツール等の検討が必要である。
- ・グループホームは退院先としてニーズの高い重要な社会資源であり、地域差の解消の他にも、ケアホームのグループホームへの統合や、身体障害及び知的障害と混合で支援する困難等の課題があり、精神障害者の受け入れに向けたさらなる検討が必要である。

(参考)	全ホーム数		人口(H25.4.1現在)	
	数	割合	人口	割合
全県	439	100%	2,121,223	100%
佐久	48	10.9%	210,335	9.9%
上小	60	13.7%	198,863	9.4%
諏訪	17	3.9%	200,882	9.5%
上伊那	47	10.7%	186,637	8.8%
飯伊	43	9.8%	165,737	7.8%
木曾	7	1.6%	29,655	1.4%
松本	56	12.8%	428,049	20.2%
大北	17	3.9%	60,992	2.9%
長野	123	28.0%	547,421	25.8%
北信	21	4.8%	90,641	4.3%